

在院少年の意識の変容に関する研究（その1）

矯正協会附属中央研究所 大川 力
長谷川宜志
濱井 郁子
嶋谷 宗泰
茂木善次郎
東京矯正管区 中島千加子*

キーワード：共感性，社会的スキル，職業レディネス，自尊感情

1 はじめに

少年院における矯正教育の目的は，社会生活への再適応を容易にすることにあるが，その際に重要と考えられることの一つに，少年自身の意識の変容ということがある。

入院当初の少年たちの中に，収容されたことで自棄的な感情を強めたり，自分自身の持つ問題に目を向けようとしなかったりする者を目にすることが多い。少年院における矯正教育の大きな目標は，そうした少年たちに，自分が少年院に収容されるに至った原因をよく見つめるように指導し，社会に再適応できるような技能や知識を身に付けさせることにある。

しかし，矯正教育を軌道に乗せるためには，教育を受けている少年自身に主体的に参加しようとする意欲がなければ，どんな方法を用いても所期の目的を達成することは難しい。

そこで少年院で教育を受けている少年が，自分自身の受けている教育に対して，また，自分自身についてどのように意識しているかを，時間を関数として見ることは，教育効果を考える上で重要なことと考えられる。

このような場合，個々の少年の意識の変化を時間の経過とともに見ていくことができれば最も望ましいことであるが，実際には困難である。そこで比較的大量の対象について調査することにより，矯正教育による少年の意識の変容についての検討を試みようとしたのが本研究である。

ここで取り上げたのは，社会生活を円滑に送る上で重要だと思われる「共感性」，対人関係を上手に保っていくための「社会的スキル」，将来の生活目標や健全な生活意欲を見るための「職業レディネス」，自分自身をどのように見ているかを示す「自尊感情」の4つの尺度である。そして，入院して間もない時期と，矯正教育をほぼ終了した時期にある少年を比較することにより，少年の意識の変容を捉えようとするものである。特に「社会的スキル」については，少年院での矯正教育の中で，SST（社会的スキル訓練）として注目されている。

もとより，少年院での矯正教育の効果は，ここで取り上げた4つの側面だけで測定できるものではない。これまでも矯正教育の効果の測定について多くの研究が見られるが，ど

*現愛光女子学園

のような方法を取ってもそれで十分だとするものはなく、また、再犯の有無だけを指標として矯正教育の効果を論ずることについても問題があると思われる。

また、時代とともに少年たちの意識にも、社会的風潮にも大きな変化が見られる今日、少年院で教育を受けている少年たちの意識の変容を測定するのも意義があるものと考え、本研究を計画したものである。

2 方法

(1) 調査対象

平成11年10月1日から11月30日まで間に医療少年院を除く全国48庁に在院した少年のうち、新入時教育期（考査期間）の少年（男子865名、女子96名）及び出院準備教育期（出院直前の単独処遇期間）の少年（男子819名、女子81名）、合計1861名である。

(2) 調査内容

調査票は、職員用調査票と少年用調査票の2種類で構成されている。

ア 職員用調査票

次の13項目について、職員に記入を依頼した。

- ① 性別
- ② 年齢
- ③ 入院日
- ④ 本件非行名（複数ある場合は主たるもの）
- ⑤ 少年院の種別と分類級
- ⑥ 現教育期間
- ⑦ 児童自立支援施設（教護院）歴
- ⑧ 少年院入院歴
- ⑨ 不良集団所属歴
- ⑩ 知能検査結果（集団式、個別式）
- ⑪ MJPI粗点
- ⑫ 最終学歴
- ⑬ 入院時の保護者

イ 少年用調査票

新入時教育期の少年用としたA調査票は以

下の4尺度で構成されている。出院準備期の少年用としたB票は、A票の内容に加えて、「少年院生活で変わった点、変わらなかった点について」自由記述による内省報告を求めたものである。

㉠ 共感性尺度

出口ら（1990）による共感性尺度の短縮版であり、全部で15項目からなっている。「私は落ち込んでいる人を見ると、自分まで落ち込んでしまう」など、現実の人及びテレビの主人公などの架空の人への感情を推定し、感情を共有する程度を測定するもので、回答は「ちがう」、「すこしちがう」、「どちらともいえない」、「まあそのとおり」、「そのとおり」の5つの回答から自分に当てはまる回答1つを選ばせるものであり、それぞれ1点から5点の得点を与え、15項目全部の得点を合計して共感性得点を算出する（回答と配点は他の尺度でも同じ方法を採用した）。得点が高いほど共感性が高くなるようにしている。

(i) 社会的スキル尺度

菊地（1988）によるもので、「相手が怒っているときに、うまくなだめることができる」など、社会場面で具体的な課題を円滑に行うのに必要な特定の能力の獲得の度合いを測るものであり、18項目から成っている。回答と配点は共感性尺度と同じであり、15の全項目を合計して、総合得点を算出する。得点は高い方が社会的スキルが高いようにしている。

(ii) 職業レディネス尺度

「職業レディネス」とは、就職を控えた学生が、職業に就くことに対し、どの程度「成熟」した考えを持っているかを表す概念と定義されている。

「職業レディネス尺度」は若林ほか（1983）によるもので、「職業に就くことに対し、どの程度前向きな気持ちを示し、そのための心構えを持つことができているか」についての尺度であり、以下の5つの観点から問題が用意されている。

① 職業選択への関心：職業選択にどれほど関心を持ち、どれほどやる気があるのかの程度

② 選択範囲の限定性：自分のやりたい仕事・職業がどれほど絞り込まれているかの程度

③ 選択の現実性：自分のやりたいと考えている職業が、実際に就ける可能性のあるものか否かの程度

④ 選択の主体性：職業の選択にどの程度自分の興味や適性を優先させ、自分の選んだ職業にどれだけ責任を持てるかの程度

⑤ 自己知識の客観性：自分自身の能力や興味をどのくらい客観的に見ることができているかの程度

ただし、下位尺度ごとに尺度化するのではなく、総合的な単一尺度として作られている。回答と配点は共感性尺度と同じであり、21項目の得点を合計し、得点の高い方がレディネスが高いようにしている。

(㊦) 自尊感情尺度

Rosenberg, M (1965) の日本語訳（山本ら 1982, 星野 1972）を参考にし、大川ら (1998) が検討を加え、本来10項目であったものを9項目とした。「だいたいにおいて、私は自分に満足している」など、自己評価を問う質問から成っている。回答と配点は共感性尺度と同じであり、得点は高い方が自尊感情が高いようにしてある。

なお今回の報告は、調査項目のうち共感性

尺度、職業レディネス尺度、自尊感情尺度の結果について述べ、社会的スキル尺度及び自由記述などの結果については次回で報告する。

3 結果

(1) 調査対象者

有効な資料として得られたのは、男子1,674名、女子176名、合計1,850名である。これらの対象者は、新入時教育期か出院準備教育期のいずれであるかと、少年院の入院経験の有無により4群に分けた（表1）。

表1 調査対象者の構成

		教育過程	
		新入教育期	出院準備期
入院 経験	なし	新入・初入群	出院・初入群
	あり	新入・再入群	出院・再入群

なお、群名については、以後表のように略記する。また、初入と再入を合わせた新入教育期の少年を「新入群」、同様に出院準備期にある少年を「出院群」、また、今回以前に少年院収容経験のない少年を教育過程にかかわらず総称して「初入群」、収容経験のある者を「再入群」と呼ぶこととする。

(2) 調査対象者の特徴

まず上記の4群について属性を概観する。

表2 調査対象者群別・年齢別人員

性別	群別	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上	合計	平均年齢
男子	新入・初入群	38	95	151	185	139	116	3	727	16.91
	新入・再入群		4	22	34	31	43	2	136	17.71
	出院・初入群	3	34	104	165	171	134	96	707	17.76
	出院・再入群		133	4	9	19	29	43	104	19.04
	合計		41	133	281	393	341	322	144	1674
女子	新入・初入群	7	10	16	25	13	16		87	16.90
	新入・再入群		1	2		3	3		9	17.56
	出院・初入群		8	11	19	10	11	11	70	17.41
	出院・再入群	7	1	1	2	3	1	2	10	18.70
	合計		7	20	30	46	29	31	13	176

表3 非行名別人員

男子	新入・初入群		新入・再入群		出院・初入群		出院・再入群		合計	
	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
乗りもの盗	15	2.1	1	0.7	10	1.4	1	1.0	27	1.6
窃盗	206	28.3	40	29.4	195	27.6	41	39.4	482	28.8
詐欺	5	0.7	1	0.7	1	0.1			7	0.4
恐喝	52	7.2	14	10.3	63	8.9	8	7.7	137	8.2
暴行	3	0.4					1	1.0	4	0.2
傷害	116	16.0	20	14.7	85	12.0	14	13.5	235	14.0
暴力行為	8	1.1	1	0.7	4	0.6	2	1.9	15	0.9
強盗	77	10.6	10	7.4	61	8.6	2	1.9	150	9.0
殺人	3	0.4	1	0.7	4	0.6			8	0.5
強姦	36	5.0	2	1.5	47	6.6	3	2.9	88	5.3
強制わいせつ	8	1.1	1	0.7	15	2.1			24	1.4
業過死傷	11	1.5	2	1.5	14	2.0	4	3.8	31	1.9
道交法	83	11.4	14	10.3	103	14.6	10	9.6	210	12.5
覚せい剤	40	5.5	12	8.8	19	2.7	5	4.8	76	4.5
大麻	1	0.1							1	0.1
毒劇物	17	2.3	5	3.7	24	3.4	6	5.8	52	3.1
ぐ犯	20	2.8	6	4.4	17	2.4	1	1.0	44	2.6
その他特別法犯	1	0.1	1	0.7	4	0.6			6	0.4
その他の刑法犯	24	3.3	5	3.7	33	4.7	4	3.8	66	3.9
凶器準備					2	0.3			2	0.1
銃刀法					2	0.3	1	1.0	3	0.2
条例違反	1	0.1			1	0.1			2	0.1
無回答					3	0.4	1	1.0	4	0.2
合計	727	100	136	100	707	100	104	100	1674	100.0

女子	新入・初入群		新入・再入群		出院・初入群		出院・再入群		合計	
	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
窃盗	13	14.9			11	15.7			24	13.6
詐欺							1	10.0	1	0.6
恐喝	6	6.9	1	11.1	7	10.0			14	8.0
暴行					1	1.4			1	0.6
傷害	15	17.2	1	11.1	9	12.9	1	10.0	26	14.8
強盗					2	2.9			2	1.1
放火	1	1.1							1	0.6
殺人					1	1.4			1	0.6
道交法					2	2.9			2	1.1
覚せい剤	30	34.5	4	44.4	17	24.3	4	40.0	55	31.3
毒劇物	5	5.7	1	11.1	6	8.6	1	10.0	13	7.4
ぐ犯	15	17.2	2	22.2	14	20.0	1	10.0	32	18.2
その他	2	2.3					2	20.0	4	2.3
合計	87	100.0	9	100.0	70	100.0	10	100.0	176	100.0

表4 分類級別人員

男子	新入・初入群		新入・再入群		出院・初入群		出院・再入群		合計	
	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
S 1	36	5.0			10	1.4			46	2.7
S 2	13	1.8			21	3.0	1	1.0	35	2.1
S 3	267	36.7	1	0.7	233	33.0	2	1.9	503	30.0
O	37	5.1			65	9.2			102	6.1
G 1	40	5.5	53	39.0	55	7.8	43	41.3	191	11.4
G 2	1	0.1			5	0.7			6	0.4
V 1	20	2.8	15	11.0	28	4.0	13	12.5	76	4.5
V 2	239	32.9	66	48.5	250	35.4	45	43.3	600	35.8
E 1	68	9.4			30	4.2			98	5.9
E 2	6	0.8	1	0.7	8	1.1			15	0.9
その他					1	0.1			1	0.1
無回答					1	0.1			1	0.1
合計	727	100	136	100	707	100	104	100	1674	100.0

注1 S1, S2, S3は一般短期処遇, Oは特修短期処遇である。また, 以下は長期処遇を示し, G1, G2は生活訓練課程, V1, V2は職業能力開発課程, E1, E2は教科教育課程をそれぞれ示す。

詳細は参考文献を参照されたい。

注2 欠けている分類級には該当者が無いので省略した。

女子	新入・初入群		新入・再入群		出院・初入群		出院・再入群		合計	
	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
S 1	7	8.0			1	1.4			8	4.5
S 2					1	1.4			1	0.6
S 3	27	31.0	1	11.1	25	35.7			53	30.1
O	2	2.3							2	1.1
G 1	6	6.9	3	33.3	5	7.1	6	60.0	20	11.4
V 2	33	37.9	2	22.2	34	48.6	3	30.0	72	40.9
E 1	4	4.6			2	2.9			6	3.4
H 1	5	5.7	2	22.2	1	1.4	1	10.0	9	5.1
H 2	3	3.4							3	1.7
その他			1	11.1					1	0.6
無回答					1	1.4			1	0.6
合計	87	100	9	100	70	100	10	100	176	100.0

注1 H1, H2は長期処遇のうちの特殊教育課程をそれぞれ示している。その他の分類級は上の表の注を参照されたい。

注2 欠けている分類級には該当者が無いので省略した。

ア 年齢

年齢別人員は, 表2のとおりである。男女とも平均年齢では新入・初入群がもっとも低く, 出院・再入群ではそれよりも2歳程度高くなっている。

イ 非行名

今回の非行名(複数ある場合には主たる非

行を選択)については, 表3のとおりである。男子については4群の間に大きな差はなく, 窃盗, 傷害, 道路交通法違反が多い。一方, 女子では, どの群でも覚せい剤が最も多く, 2割から4割強を占め, ぐ犯や窃盗, 傷害が2割から1割程度となっている。

ウ 処遇分類級

結果は表4のとおりであり、処遇分類級の説明は注を参照されたい。男女ともに、初入群は「S3」, 「V2」が目立って多い。一方、再入群では、男子では、「V2」, 「G1」の2つで8割以上を占め、女子でも「G1」がもっとも多く、「V2」, 「H1」と

続いている。

エ 知能検査結果

知能偏差値の分布を見たものが表5である。男女ともに知能偏差値35~44の者が多い。また、男女差については、男子が女子よりも高い。

表5 知能検査結果

性別	知能偏差値 群別	24以下		25~34		35~44		45~54		55~64		65以上		合計 人員	IQ平均	SD
		人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%			
男子	新入・初入群	22	3.0	139	19.1	249	34.3	232	31.9	70	9.6	15	2.1	727	89.30	15.28
	新入・再入群	3	2.2	28	20.6	41	30.1	41	30.1	18	13.2	5	3.7	136	90.59	17.67
	出院・初入群	34	4.8	147	20.8	258	36.5	179	25.3	75	10.6	14	2.0	707	87.56	16.80
	出院・再入群	4	3.8	13	12.5	29	27.9	38	36.5	15	14.4	5	4.8	104	91.81	20.22
	合計	63	3.8	327	19.5	577	34.5	490	29.3	178	10.6	39	2.3	1674	88.82	16.50
女子	新入・初入群	11	12.6	22	25.3	33	37.9	19	21.8	2	2.3			87	79.13	20.18
	新入・再入群	3	33.3	3	33.3	2	22.2	1	11.1					9	70.56	16.02
	出院・初入群	7	10.0	21	30.0	29	41.4	11	15.7	2	2.9			70	78.33	22.94
	出院・再入群	1	10.0	1	10.0	3	30.0	3	30.0	2	20.0			10	92.20	17.85
	合計	22	12.5	47	26.7	67	38.1	34	19.3	6	3.41			176	79.11	21.20

注 SDは標準偏差の略である。

(3) 共感性尺度

共感性尺度の15項目について、男女別に回答の分布を見た(付表1)。

一般的に、共感性が高いとされる方向に回答している。すなわち、「私は友達が悩みごとを話すと、話をそらしたくなる」では「ちがう」の回答が男女ともに7割を超えている。その外、「そのとおり」、「まあそのとおり」をあわせた肯定回答(逆転項目では「ちがう」、「すこしちがう」の否定回答)が8割を超えるものが、男子では、「私はテレビなどでドラマを見てるとつい夢中になる」、「私はテレビなどのドラマを見て涙ぐんでいる人を見ると、おかしいと思うことがある」、「わたしは悲しくて涙を流している人を見ると、同情するよりいらいらしてしまうことがある」の3項目あり、女子は最初の2項目が同じである。

否定回答が肯定回答を上回る項目(逆転項目では肯定、否定が逆になる)は、男子で「私は落ち込んでいる人を見ると自分まで落ち込

んでしまう」「私はテレビなどで感動的なドラマを見ると、自分をすぐその主人公に置き換えてしまう」の2項目、女子では「私はまわりの人が細かいところを気にしたりすると、自分までいらいらしてしまう」の1項目となっている。

さらに、各質問項目毎の平均点を見たところ(付表2)、ほとんどの項目で3点を超えており、先に指摘したように、共感性が高いとされる方向への回答が全体として見られることがあらためて確認された。

15項目を合計して算出した共感性得点の平均点を性別・群別に分けて見たものが表6である。男女間では、女子の得点が高く統計的に有意な差が見られた($t=2.25$, $p<.05$)。また、男子は、新入群と出院群の間で有意差があり($t=4.23$, $p<.01$)、出院期には新入期よりも、共感性得点が低くなっている。その点をより詳しく分析したところ、再入群では新入期と出院期に得点に差はないが、初入群で得点が有意に下がっていた($t=4.75$, $p<$

付表1 共感性尺度 回答分布・男女別

男子	質問内容	そのとおり	まあその とおり	どちらとも いえない	すこしちがう	ちがう	無回答
1	私は親しい友達がい仕事を見つけた時は、自分のことのように喜んでしまう。	23.7	35.5	24.1	10.3	6.4	0.1
2	私は見知らぬ人であっても、その人の表情や態度から心の中を想像してみることがある	21.9	28.7	19.4	12.4	17.5	0.2
3	私はテレビなどのドラマを見て涙ぐんでいる人を見ると、おかしいと思うことがある	2.3	2.4	10.1	16.7	68.4	0.1
4	私は落ち込んでいる人を見ると自分まで落ち込んでしまう	8.5	20.1	30.5	17.1	23.7	0.2
5	私はテレビなどで感動的なドラマを見ると、自分をすぐその主人公に置き換えてしまう	14.8	19.3	20.0	14.5	31.4	0.1
6	私は、親友が口に出して言わなくても何を考えているのか大体わかる	19.4	35.9	24.3	11.3	9.0	0.2
7	わたしは一人暮らしのお年寄りを見ると、かわいそうになる	43.8	28.1	18.2	5.0	4.6	0.3
8	わたしは悲しくて涙を流している人を見ると、同情するよりいらいらしてしまうことがある	2.2	3.6	10.8	19.5	63.7	0.2
9	私は人から何か言われると簡単に決心を変えてしまいやすい	15.1	24.6	23.2	17.5	19.2	0.3
10	私はマンガを読んでいると、その主人公の気持ちに引き込まれてしまうことがある	20.7	23.2	22.4	12.6	20.9	0.2
11	私は人が冷たくされているのを見ると、大変腹が立つ	32.6	33.7	24.3	5.3	4.0	0.1
12	私は話し合いをしているときは、相手が自分の考えをどう思っているかをまず知ろうとする	21.7	29.6	28.0	12.4	8.1	0.3
13	私はまわりの人が細かいところを気にしたりすると、自分までいらいらしてしまう	13.3	18.2	22.6	19.5	26.2	0.2
14	私はテレビなどでドラマを見てるとつい夢中になってしまう	63.0	23.2	8.1	3.0	2.3	0.4
15	私は友達が悩みごとを話すと、話をそらしたくなる	1.3	1.6	6.9	17.2	72.9	0.1

女子	質問内容	そのとおり	まあその とおり	どちらとも いえない	すこしちがう	ちがう	無回答
1	私は親しい友達がい仕事を見つけた時は、自分のことのように喜んでしまう。	31.3	34.7	23.3	6.3	4.5	0.0
2	私は見知らぬ人であっても、その人の表情や態度から心の中を想像してみることがある	23.3	33.5	21.6	9.7	11.9	0.0
3	私はテレビなどのドラマを見て涙ぐんでいる人を見ると、おかしいと思うことがある	2.3	2.3	8.0	17.0	69.9	0.6
4	私は落ち込んでいる人を見ると自分まで落ち込んでしまう	14.2	24.4	29.0	14.2	18.2	0.0
5	私はテレビなどで感動的なドラマを見ると、自分をすぐその主人公に置き換えてしまう	15.3	21.6	26.7	11.4	25.0	0.0
6	私は、親友が口に出して言わなくても何を考えているのか大体わかる	23.3	32.4	31.3	4.0	9.1	0.0
7	わたしは一人暮らしのお年寄りを見ると、かわいそうになる	48.9	27.8	14.8	3.4	5.1	0.0
8	わたしは悲しくて涙を流している人を見ると、同情するよりいらいらしてしまうことがある	1.7	6.8	18.2	15.9	57.4	0.0
9	私は人から何か言われると簡単に決心を変えてしまいやすい	17.0	25.0	26.1	18.2	13.6	0.0
10	私はマンガを読んでいると、その主人公の気持ちに引き込まれてしまうことがある	24.4	30.7	22.7	9.7	12.5	0.0
11	私は人が冷たくされているのを見ると、大変腹が立つ	33.0	27.3	31.8	6.3	1.7	0.0
12	私は話し合いをしているときは、相手が自分の考えをどう思っているかをまず知ろうとする	18.8	30.7	33.0	8.5	9.1	0.0
13	私はまわりの人が細かいところを気にしたりすると、自分までいらいらしてしまう	14.8	26.1	21.0	17.6	20.5	0.0
14	私はテレビなどでドラマを見てるとつい夢中になってしまう	67.6	20.5	9.7	1.1	0.6	0.6
15	私は友達が悩みごとを話すと、話をそらしたくなる	0.0	0.0	6.8	15.3	77.8	0.0

注1 網掛けは逆転項目を示す。 注2 数値は%を示す。

付表2 共感性尺度 項目別平均点・新入時と出院時の比較

男子	質問内容	新入・初入群 727名			出院・初入群 707名			t値	新入・再入群 136名			出院・再入群 104名			t値
		欠損値	平均点	S D	欠損値	平均点	S D		欠損値	平均点	S D	欠損値	平均点	S D	
1	私は親しい友達がよい仕事を見つけた時は、自分のことのように喜んでしまう。	1	3.70	1.09		3.49	1.18	3.435**		3.65	1.10		3.55	1.25	
2	私は見知らぬ人であっても、その人の表情や態度から心の中を想像してることがある	2	3.11	1.37	1	3.34	1.39	4.859**		3.25	1.40		3.66	1.36	
3	私はテレビなどのドラマを見て涙ぐんでいる人を見ると、おかしいと思うことがある	1	4.59	0.78	1	4.35	1.05			4.43	0.95		4.44	0.95	
4	私は落ち込んでいる人を見ると自分まで落ち込んでしまう	2	2.75	1.24	1	2.68	1.28			2.60	1.28		3.02	1.20	2.636**
5	私はテレビなどで感動的なドラマを見ると、自分をすぐその主人公に置き換えてしまう	2	2.70	1.40		2.70	1.49			2.79	1.47		2.87	1.56	
6	私は、親友が口に出して言わなくても何を考えているのか大体わかる	2	3.46	1.20	1	3.44	1.18	3.426**		3.48	1.18		3.48	1.08	
7	わたしは一人暮らしのお年寄りを見ると、かわいそうになる	2	4.13	1.04	2	3.92	1.18	4.680**		4.01	1.00	1	3.93	1.19	
8	わたしは悲しくて涙を流している人を見ると、同情するよりいらいらしてしまうことがある	3	4.50	0.86	1	4.25	1.08			4.54	0.80		4.41	0.95	
9	私は人から何か言われると簡単に決心を変えてしまいがち	2	3.01	1.32	3	2.96	1.35			3.12	1.37		2.82	1.36	1.685†
10	私はマンガを読んでいると、その主人公の気持ちに引き込まれてしまうことがある	4	3.05	1.39		3.15	1.44			2.96	1.43		3.31	1.46	1.830†
11	私は人が冷たくされているのを見ると、大変腹が立つ	1	3.90	1.00		3.83	1.09			3.74	1.17		3.90	1.13	
12	私は話し合いをしているときは、相手が自分の考えをどう思っているかをまず知ろうとする	4	3.51	1.13	1	3.33	1.24	2.846**		3.56	1.16		3.63	1.24	
13	私はまわりの人が細かいところを気にしたりすると、自分までいらいらしてしまう	1	3.56	1.30	2	3.01	1.38		1	3.34	1.34		2.95	1.48	
14	私はテレビなどでドラマを見てるとつい夢中になってしまう	3	4.51	0.81	2	4.39	1.00	2.509**	1	4.19	1.02		4.31	1.04	2.123**
15	私は友達が悩みごとを話すと、話をそらしたくなる	1	4.66	0.69	1	4.49	0.92	3.991**		4.75	0.54		4.53	0.85	2.325**

女子	質問内容	新入・初入群 87名			出院・初入群 70名			t値	新入・再入群 9名			出院・初入群 10名			t値
		欠損値	平均点	S D	欠損値	平均点	S D		欠損値	平均点	S D	欠損値	平均点	S D	
1	私は親しい友達がよい仕事を見つけた時は、自分のことのように喜んでしまう。		3.91	1.07		3.71	1.09			3.44	1.24		4.10	0.99	
2	私は見知らぬ人であっても、その人の表情や態度から心の中を想像してることがある		3.29	1.22		3.56	1.38			3.78	0.67		4.10	1.29	
3	私はテレビなどのドラマを見て涙ぐんでいる人を見ると、おかしいと思うことがある		4.59	0.77	1	4.55	0.87			3.56	1.42		4.40	1.35	
4	私は落ち込んでいる人を見ると自分まで落ち込んでしまう		3.13	1.36		2.87	1.21			3.11	1.05		3.10	1.60	
5	私はテレビなどで感動的なドラマを見ると、自分をすぐその主人公に置き換えてしまう		2.97	1.43		2.87	1.40			2.67	1.22		2.90	1.29	
6	私は、親友が口に出して言わなくても何を考えているのか大体わかる		3.65	1.01		3.56	1.29			3.00	1.00		3.50	1.51	
7	わたしは一人暮らしのお年寄りを見ると、かわいそうになる		4.20	1.05		4.04	1.11			4.00	1.22		4.11	1.52	
8	わたしは悲しくて涙を流している人を見ると、同情するよりいらいらしてしまうことがある		4.29	1.03		4.14	1.13			3.44	1.01		4.60	0.70	2.919**
9	私は人から何か言われると簡単に決心を変えてしまいがち		3.09	1.27		3.10	1.28			3.00	1.22		3.90	1.45	
10	私はマンガを読んでいると、その主人公の気持ちに引き込まれてしまうことがある		3.48	1.30		3.40	1.27			3.00	1.50		3.90	1.37	
11	私は人が冷たくされているのを見ると、大変腹が立つ		3.87	0.97		3.84	1.00			3.56	1.01		3.70	1.49	
12	私は話し合いをしているときは、相手が自分の考えをどう思っているかをまず知ろうとする		3.40	1.06		3.27	1.28			3.44	0.88		4.50	0.71	2.893**
13	私はまわりの人が細かいところを気にしたりすると、自分までいらいらしてしまう		3.21	1.41		2.87	1.32			2.67	0.71		2.90	1.66	
14	私はテレビなどでドラマを見てるとつい夢中になってしまう	1	4.57	0.73		4.53	0.81			4.56	0.73		4.40	0.84	
15	私は友達が悩みごとを話すと、話をそらしたくなる		4.76	0.53		4.71	0.59			4.11	0.93		4.80	0.42	2.045**

注1 SDは標準偏差である。 注2 網掛けは逆転項目である。 注3 **は1%水準、*は5%水準で有意であり、†は10%水準で有意な傾向があることを示す。

表6 共感性尺度得点 性別・群別

性別	群 別	人員	平均点	S D	t値
男子	新入・初入群	713	55.20	6.85	4.75**
	出院・初入群	693	53.44	7.14	
	新入・再入群	134	54.43	7.01	4.232**
	出院・再入群	103	54.71	7.53	
	新入群計	847	55.08	6.88	4.232**
	出院群計	796	53.61	7.20	
	初入群計	1406	54.33	7.05	4.232**
再入群計	237	54.55	7.23		
	全 員	1643	54.36	7.07	(注2)
女子	新入・初入群	86	56.44	7.42	3.358*
	出院・初入群	69	54.97	5.62	
	新入・再入群	9	51.33	6.04	3.358*
	出院・再入群	10	58.90	3.60	
	新入群計	95	55.96	7.43	3.358*
	出院群計	79	55.47	5.55	
	初入群計	155	55.79	6.70	3.358*
再入群計	19	55.32	6.15		
	全 員	174	55.74	6.63	(注2)

注1 全項目に回答していない者は除外したので、人員は表2とは一致しない。
 注2 性差については、女子が男子よりも有意に得点が高かった(t=2.446, p<.05)。
 注3 *は5%水準、**は1%水準で有意であることを示す。

表7 共感性尺度得点 年齢別比較

男子	年少群 (168名)		中間群 (662名)		年長群 (813名)		F値	多重比較
	平均点	SD	平均点	SD	平均点	SD		
	54.02	7.39	54.60	7.02	54.24	7.05	0.706	
女子	年少群 (27名)		中間群 (75名)		年長群 (72名)		F値	多重比較
	平均点	SD	平均点	SD	平均点	SD		
	51.19	8.47	56.21	6.09	56.96	5.69	8.435**	年少<中間 年少<年長

注1 年齢層において多重比較により有意な差が検出された箇所については不等号で示した。
 注2 **は1%水準で有意であることを示す。

01)。したがって出院期に共感性得点が下がるのは、初入群の影響が大きい。一方、女子では、新入群と出院群の間も、再入群・初入群の間にも、有意な差は見られなかった。また、年齢群別に平均点を算出し、F検定を行った結果が表7である。男子では年齢による差はないが、女子では低年齢群が他の2群よりも有意に低いことが示された。

(4) 職業レディネス尺度

21項目をまとめて総合得点とする職業レディネス尺度得点について、性別、群別に平均得点を算出し、比較を行った結果が表8である。それぞれの群の間で有意の差があったのは、女子の再入群の新入期と出院期だけであった。しかし人員が少なく決定的なことは言えない。性差については、t検定の結果、1%

水準 ($t=2.626, p<.01$) で男子が女子よりも高くなっている。したがって、男子は女子よりも職業レディネスが高いと考えられる。また、年齢を3群に分けて、平均得点を比較すると、表9に示すように、男女ともに有意な差が見

られた。すなわち、男子では、年長群は年少群と中間群より高く、女子では、年長群と中間群が年少群より高くなっている。更に、性別、群別に、項目毎の平均得点を算出し、入院時と出院時の間でt検定を行った結果が付

表8 職業レディネス尺度 性別・群別得点

性別	群別	人員	平均得点	SD	t値
男子	新入・初入群	713	88.24	10.71	1.758†
	出院・初入群	691	87.24	10.99	
	新入・再入群	133	87.22	11.94	
	出院・再入群	103	87.16	11.75	
	新入群計	846	88.08	10.91	
	出院群計	794	87.23	11.09	
	初入群計	1404	87.75	10.86	
	再入群計	236	87.19	11.83	
	全員	1640	87.56	11.00	(注3)
	女子	新入・初入群	86	84.08	13.24
出院・初入群		70	86.73	11.12	
新入・再入群		8	78.75	8.58	2.619*
出院・再入群		10	88.60	7.38	
新入群計		94	83.63	12.96	1.858†
出院群計		80	86.96	10.70	
初入群計		156	85.27	12.37	
再入群計		18	84.22	9.19	
全員		174	85.16	12.06	(注3)

注1 全項目に回答していない者は除外したので、人員は表2とは一致しない。

注2 *は5%水準で有意であることを示し、†は10%水準で有意な傾向を示す。

注3 性差については、男子が女子よりも有意に得点が高かった ($t=2.626, p<.01$)。

表9 職業レディネス尺度 平均点・年齢別比較

男子	年少群 (167名)		中間群 (654名)		年長群 (819名)		F値	多重比較
	平均点	SD	平均点	SD	平均点	SD		
	86.25	10.85	86.39	11.13	88.98	10.79	11.753**	中間<年長 年少<年長
女子	年少群 (27名)		中間群 (75名)		年長群 (72名)		F値	多重比較
	平均点	SD	平均点	SD	平均点	SD		
	77.15	11.22	85.45	13.35	87.86	9.53	8.457**	年少<中間 年少<年長

注1 年齢層において多重比較により有意な差が検出された箇所については不等号で示した。

注2 括弧内は人員を示す。

注3 **は1%水準で有意であることを示す。

表3-1, 付表3-2である。

入院期と出院期で有意な差があった項目のうち、男子の初入群では得点が上がった項目が2項目、逆に得点が下がった項目が4項目となっている。男子再入群では1項目のみで有意な差があった。一方、女子の初入群では4項目で、女子の再入群では5項目で得点が増し、逆に下降したものはなかった。

有意差の見られた項目については、各群でまちまちであり、全体の共通性は乏しいが、「自分のつきたい仕事はいろいろあっても、その仕事につけそうには思えない」の項目は、男子の初入・再入の両群で、新入期よりも出院期で有意に得点が低くなっている。すなわち、逆転項目であるこの質問を肯定する傾向があるということになる。また、「自分がし

付表3-1 職業レディネス尺度得点 群別・項目別・新入時出院時の比較 男子

	質 問 項 目	新入・初入群 727名			出院・初入群 707名			t 値	新入・再入群 136名			出院・再入群 104名			t 値
		欠損値	平均点	S D	欠損値	平均点	S D		欠損値	平均点	S D	欠損値	平均点	S D	
1	仕事はつらいものだから、できれば仕事につかないで、自分の好きなことだけやっていたい	1	4.14	1.26	3.82	1.42	4.516**	1	3.84	1.46	3.69	1.50			
2	いまは自分の好きなことだけやって、将来について考えるのは、もう少し後にしたい	2	4.38	1.04	4.32	1.09		1	4.33	1.13	4.36	1.05			
3	仕事で自分の力をためてみたいと思っている	1	4.39	0.90	1	4.35	0.91		1	4.36	0.97	4.44	0.95		
4	将来の仕事のことについては、できるだけ考えないようにしている	2	4.53	0.85	1	4.52	0.84		1	4.52	0.91	4.57	0.82		
5	自分の選んだ仕事をして、自分にどれだけの力があるのかを確かめてみたい	1	4.55	0.82	1	4.47	0.89	1.725†	1	4.47	1.01	4.50	0.91		
6	社会で役立つ知識や資格を身につけたい	2	4.66	0.68	2	4.63	0.82		1	4.65	0.79	4.50	0.99		
7	自分がしたい仕事につくことを目指して、準備をし努力している	2	3.58	1.27	3.77	1.21	2.846**	1	3.70	1.15	3.98	1.23	1.835†		
8	自分がどんな職業につけばいいか、最近よく分かってきた	2	3.69	1.29	2	3.68	1.27		1	3.56	1.35	3.79	1.27		
9	自分のつきたい仕事はいろいろあっても、その仕事につけそうには思えない	3	3.58	1.27	2	2.98	1.45	8.320**	1	3.54	1.44	2.71	1.48	4.363**	
10	まわりのみんながいろいろなことを言うので、自分がほんとうになにがやりたいのか、分からなくなってしまう	2	4.06	1.21	4.06	1.21		2	3.85	1.33	4.04	1.25			
11	自分が将来どうなるのか分からないのだから、自分にあった仕事を考えても意味がないと思う	1	4.68	0.69	4.59	0.81	2.206*	1	4.65	0.77	4.63	0.77			
12	仕事を選ぶときには、興味があり、やりがいもあるかどうかを考えることが、とても大切である	2	4.55	0.75	1	4.54	0.76		1	4.50	0.88	4.36	1.03		
13	自分がやりたい仕事についてよく知っているのだから、どうすればその仕事につけるのか分かっている	3	3.35	1.34	3.38	1.33		1	3.48	1.32	3.28	1.42			
14	仕事を選ぶことは、くじ引きのようなものだから、皆たまたまその仕事をしているだけだ	1	4.67	0.67	4.63	0.73		2	4.58	0.74	4.55	0.82			
15	どんな仕事でもいいから、とりあえず就職して、将来のことはその後でじっくり考えればよい	1	3.84	1.26	3.87	1.24		1	3.61	1.30	3.67	1.31			
16	自分の将来は自分で考え、自分にあった仕事を探しがんばっていききたい	1	4.70	0.69	4.62	0.75	2.150*	1	4.71	0.60	4.63	0.72			
17	自分に何が向いているのか分からないし、これといって得意なものもないので、仕事を決める場合は、まわりの人の意見に従う	3	4.21	0.98	1	4.30	0.88	1.976*	1	4.16	0.98	1	4.38	0.92	1.791†
18	生まれたときの環境でその人の仕事はほとんど決まってしまうので、成り行きにまかせる	3	4.51	0.79	4.52	0.80		1	4.56	0.81	4.67	0.61			
19	自分は、将来、仕事についての大きな目標があるので、それをかなえるために、自分でいろいろ考えてやっていく	2	4.16	1.09	2	4.18	1.13		1	4.24	1.07	4.28	1.13		
20	自分の責任で、自分の仕事を選ぶことが必要である	2	4.38	0.82	2	4.36	0.89		1	4.43	0.82	4.56	0.75		
21	いままでの経験から、自分にどのくらいの能力があり、どのような仕事に向いているかは、だいたい分かっている	3	3.60	1.22	3.57	1.22		1	3.67	1.17	3.70	1.31			

注1 網掛けは逆転項目である。 注2 **は1%水準、*は5%水準で有意であり、†は10%水準で有意な傾向があることを示す。

たい仕事につくことを目指して、準備をし努力している」については、男女とも初入群で、新入期よりも出院期に得点が高くなっている。「どんな仕事でもいいから、とりあえず就職して、将来のことはその後でじっくり考えればよい」については、女子で初入群、再入群ともに、出院期で新入期よりも得点が高くな

っている。

(5) 自尊感情尺度

先に述べたRosenberg, Mらによる自尊感情尺度を用いて調査を実施した結果について述べる。

まず、各質問項目について、回答の分布を男女別に示したものが表10である。男女の各

付表3-2 職業レディネス尺度得点 群別・項目別・新入時出院時の比較 女子

	質問項目	新入・初入群 87名			出院・初入群 70名			t 値	新入・再入群 9名			出院・再入群 10名			t 値
		欠損値	平均点	SD	欠損値	平均点	SD		欠損値	平均点	SD	欠損値	平均点	SD	
1	仕事はつらいものだから、できれば仕事につかないで、自分の好きなことだけやっていたい		4.21	1.13	3.97	1.34		3.78	1.39	3.70	1.49				
2	いまは自分の好きなことだけやって、将来について考えるのは、もう少し後にしたい		4.28	1.04	4.33	0.99		3.89	1.27	3.80	1.55				
3	仕事で自分の力をためてみたいと思っている	1	4.33	0.96	4.19	1.18		3.89	1.05	4.70	0.48	2.196*			
4	将来の仕事のことは、できるだけ考えないようにしている		4.41	0.96	4.49	0.93		3.78	1.39	4.70	0.95				
5	自分の選んだ仕事をして、自分にどれだけの力があるのか確かめてみたい		4.28	0.97	4.31	1.17		4.00	1.00	4.80	0.42	2.317*			
6	社会で役立つ知識や資格を身につけたい		4.15	1.04	4.29	1.08		4.11	1.36	4.80	0.63				
7	自分がしたい仕事につくことを目指して、準備をし努力している		3.22	1.32	3.70	1.20	2.373*	2.67	1.00	3.70	1.34	1.889†			
8	自分がどんな職業につけばいいか、最近よく分かってきた		3.25	1.41	3.84	1.16	2.817**	3.44	1.24	3.80	1.03				
9	自分のつきたい仕事はいろいろあっても、その仕事につけそうには思えない		3.32	1.46	3.14	1.48		2.78	1.20	2.60	1.58				
10	まわりのみんながいろいろなことを言うので、自分がほんとうにながやりたいのか、分からなくなってしまっている		3.85	1.33	4.13	1.24		3.67	1.41	4.10	1.52				
11	自分が将来どうなるのか分からないのだから、自分があった仕事を考えても意味がないと思う		4.43	0.95	4.66	0.68	1.783†	4.00	0.87	4.90	0.32	2.946*			
12	仕事を選ぶときには、興味があり、やりがいもあるかどうかを考えることが、とても大切である		4.44	0.74	4.56	0.81		4.33	0.71	4.10	1.45				
13	自分がやりたい仕事についてよく知っているの で、どうすればその仕事につけるのか分かっている		3.22	1.31	3.19	1.45		3.78	1.30	3.70	1.34				
14	仕事を選ぶことは、くじ引きのようなものだから、皆たまたまその仕事をしているだけだ		4.51	0.90	4.66	0.70		4.44	0.73	4.80	0.63				
15	どんな仕事でもいいから、とりあえず就職して、将来のことはその後でじっくり考えればよい		3.38	1.36	4.11	1.19	3.617**	2.78	1.56	4.10	0.74	2.316*			
16	自分の将来は自分で考え、自分があった仕事を探しがばっていききたい		4.68	0.58	4.56	0.79		4.78	0.44	4.40	0.97				
17	自分に何が向いているのか分からないし、これといって得意なものもないので、仕事を決める場合は、まわりの人の意見に従う		4.30	1.09	4.46	0.83		4.11	0.78	4.80	0.42	2.427*			
18	生まれたときの環境でその人の仕事はほとんど決まってしまうので、成り行きにまかせる		4.55	0.76	4.80	0.53	2.322*	4.11	0.60	4.50	0.85				
19	自分は、将来、仕事についての大きな目標があるので、それをかなえるために、自分でいろいろ考えてやっていく		3.79	1.15	3.97	1.32		4.00	1.32	4.20	0.92				
20	自分の責任で、自分の仕事を選ぶことが必要である		4.29	0.86	4.20	1.19		4.11	0.93	4.70	0.48				
21	いままでの経験から、自分にどのくらいの能力があり、どのような仕事に向いているかは、だいたいわかっている		3.22	1.32	3.19	1.24		1	3.50	1.31	3.70	1.57			

注1 網掛けは逆転項目である。注2 **は1%水準、*は5%水準で有意であり、†は10%水準で有意な傾向があることを示す。

表10 自尊感情尺度・男女回答分布

No	質問項目	男								女											
		ちがう		少しちがう		どちらとも云えない		まあそのとおり		そのとおり		ちがう		少しちがう		どちらとも云えない		まあそのとおり		そのとおり	
		人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%	人員	%
1	だいたいにおいて、私は自分に満足している	474	28.4	367	22.0	420	25.1	266	15.9	143	8.6	42	23.9	36	20.5	60	34.1	28	15.9	10	5.7
2	自分は全くだめなだめな人間だと思うことがある	218	13.0	312	18.7	312	18.7	444	26.6	386	23.1	23	13.1	34	19.3	33	18.8	38	21.6	48	27.3
3	私はいろいろな良い素質を持っている	167	10.0	224	13.4	658	39.5	415	24.9	203	12.2	22	12.5	30	17.0	72	40.9	38	21.6	14	8.0
4	物事を人並みにはうまくやれる	130	7.8	286	17.1	533	31.9	452	27.0	270	16.2	18	10.2	32	18.2	61	34.7	43	24.4	22	12.5
5	自分には自慢できるところがない	213	12.8	324	19.4	336	20.1	483	28.9	313	18.8	19	10.8	28	15.9	42	23.9	50	28.4	37	21.0
6	何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	369	22.1	450	26.9	453	27.1	252	15.1	148	8.9	34	19.3	36	20.5	54	30.7	26	14.8	26	14.8
7	私は、少なくとも人並みには価値のある人間だと思う	133	8.0	231	13.8	604	36.2	377	22.6	324	19.4	20	11.4	27	15.3	75	42.6	28	15.9	26	14.8
8	自分は敗北者だと思うことがよくある	508	30.4	377	22.6	406	24.3	231	13.8	147	8.8	44	25.1	29	16.6	66	37.7	20	11.4	16	9.1
9	私は、自分のことが気に入っている	179	10.7	221	13.2	503	30.1	371	22.2	397	23.8	22	12.5	21	11.9	65	36.9	38	21.6	30	17.0

注1 各項目で欠損値があるので合計は異なる。
注2 網掛けは逆転項目

表11 自尊感情尺度平均得点・男女比較

性別	総人員	平均点	標準偏差	t 値
男	1658	28.04	7.17	2.097 *
女	175	26.84	7.52	

注1 回答が一部でも欠落したものは資料から除いたため、上記の総人員になった。
注2 * は5%水準で有意であることを示す。

質問に対する回答傾向はほぼ同じである。自分に満足していない、だめな人間と思うことがある、自慢できるところがない、などの否定的回答をする部分もあるが、全般的には、自分を敗北者とは思わず、良い素質もあって、人並みには役に立ち、それなりの価値があるので気に入っている、と肯定的な回答をしている。

また、男女の平均得点の比較を見たものが表11である。これによると、男子の平均得点28.04は女子の平均得点26.84より有意に高くなっている。(t=2.097, p<.05)

次に、平均得点の年齢別比較を行ったのが表12である。結果は男女共に年齢による有意な差は認められなかった。

さらに、群別に比較した結果が表13である。これによると、男子の再入群と女子の初入群、再入群では入院期の方が有意に高くなっている。男子の初入群でも同じ傾向にあることが

示されている。

次に、男女の初入群、再入群について、質問項目毎に、新入期と入院期の比較を試みた結果を表14に示した。

結果は男子初入群の項目No. 1と3を除き、女子を含めて、すべて入院期の方が平均得点が高くなっている。そのうちt検定で有意に差のある項目が最も多い群は、男子再入群であり、9項目中4項目で差が認められた。

各群の特徴的考え方を把握するために、平均点が3以上であり、かつ有意な差のある項目を各群について調べた。

男子初入群では、「物事を人並みにはうまくやれる」の1項目であり、男子再入群では、「私はいろいろな良い素質を持っている」「少なくとも人並みには価値のある人間だと思う」の2項目である。女子については、初入群、再入群共に同じ2項目であり、それは「何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う」と「自分は敗北者だと思うことがよくある」のいずれも反転項目である。

表12 自尊感情尺度平均点・年齢別比較

男子	年少群 (170人)		中間群 (664人)		年長群 (824人)		F値
	平均点	SD	平均点	SD	平均点	SD	
	26.97	6.34	27.68	7.05	28.34	7.49	2.541
女子	年少群 (27人)		中間群 (75人)		年長群 (73人)		F値
	平均点	SD	平均点	SD	平均点	SD	
	25.22	5.83	26.76	7.57	27.52	8.01	0.926

表13 自尊感情尺度平均得点・群別比較

性別	初入・再入	新入・出院	総人員	平均点	標準偏差	t 値
男子	初入	新入時	718	27.82	6.89	1.505 †
		出院時	702	28.38	7.24	
	再入	新入時	134	26.49	7.37	2.761 **
		出院時	104	29.24	7.96	
女子	初入	新入時	87	25.42	7.01	2.003 *
		出院時	69	27.84	8.03	
	再入	新入時	9	26.22	5.02	2.346 *
		出院時	10	32.80	6.93	

注： **は1%水準，*は5%水準で有意であることを示す。†は10%水準で有意な傾向を示す。

4 考察

(1) 分析方法について

本研究の目的は、矯正処遇によって自分どのように変わったと意識しているかを検討することであった。これまで、さまざまな研究がなされているが、本来、厳密に処遇効果の測定を行う場合、もっとも望ましい方法は、他の条件を統制した2群の少年に対し、片方には処遇を施し、もう片方には処遇を行わないという準実験法をとることが望ましいことは言うまでもない。また、ある少年に対して少年院入院直後と、ある程度が経過した時期、そして出院間近といったように、縦断的に行動観察や意識調査等を行うことで各人の変化を追っていくことによっても、有効な情報を得ることができる。しかし、そのような方法を採用することは実際上困難なので、「新入群」を少年院処遇を受ける前の群、「出院群」を少年院処遇をほぼ修了した群とみなして、その2群についての比較的大量のデータ

を比較することで、それぞれの群の特徴と、2群の間の差から少年院在院中の変化を推測することとした。比較の前提として、両群が処遇の有り無し以外の面で等質でなくてはならないことは言うまでもないことであるが、そのために、かなり多くのデータを集めたことと、「3 結果」の前半で細かく各群の特徴をひろい、特別に目立った差がないことを確認した。ただし、年齢については、「新入群」よりも「出院群」で平均年齢が高く、「再入」は「初入」よりも高くなっていた。この点については、各尺度で年齢の要因がどのように働いているかを検討しておくこととした。

(2) 共感性尺度について

共感性尺度については、男子よりも女子で有意に得点が高く、こうした結果は従来指摘されてきたとおりであった。出口ら(2000)は、こうした性差について、女子の方が男子よりも比較的早い時期から感受性の発達を促すように育てられていることを指摘している。

次に、共感性が年齢によって差があるのか

表14 自尊感情尺度平均得点群別項目別比較

男子 No	項目		男子・初入				男子・再入			
			人員	平均点	標準偏差	t値	人員	平均点	標準偏差	t値
1	だいたいにおいて、私は自分に満足している	新入	725	2.60	1.31	1.499	135	2.40	1.36	1.144
		出院	706	2.50	1.24		104	2.60	1.25	
2	自分は全くだめな人間だと思うことがある	新入	726	2.66	1.36	-2.029 *	135	2.51	1.38	2.054 *
		出院	707	2.80	1.31		104	2.88	1.41	
3	私はいろいろな良い素質を持っている	新入	723	3.18	1.10	0.675	134	2.99	1.20	1.999 *
		出院	706	3.14	1.12		104	3.30	1.13	
4	物事を人並みにはうまくやれる	新入	725	3.21	1.13	-2.209 *	135	3.13	1.18	1.081
		出院	707	3.35	1.17		104	3.30	1.16	
5	自分には自慢できるところがあまりない	新入	725	2.69	1.28	-3.048 **	135	2.53	1.23	2.513 *
		出院	705	2.90	1.31		104	2.97	1.46	
6	何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	新入	726	3.36	1.23	-0.874	135	3.23	1.22	1.956 †
		出院	707	3.41	1.21		104	3.56	1.36	
7	私は、少なくとも人並みには価値のある人間だと思う。	新入	724	3.27	1.17	-1.194	135	3.16	1.19	3.041 **
		出院	706	3.35	1.16		104	3.62	1.12	
8	自分は敗北者だと思うことがよくある	新入	724	3.49	1.26	-0.900	135	3.41	1.38	1.011
		出院	706	3.56	1.29		104	3.60	1.37	
9	私は、自分のことが気に入っている	新入	725	3.36	1.27	-0.265	135	3.12	1.39	1.755 †
		出院	707	3.38	1.24		104	3.42	1.24	

女子 No	項目		女子・初入				女子・再入			
			人員	平均点	標準偏差	t値	人員	平均点	標準偏差	t値
1	だいたいにおいて、私は自分に満足している	新入	87	2.57	1.15	0.059	9	2.33	1.12	1.131
		出院	70	2.59	1.20		10	3.00	1.41	
2	自分は全くだめな人間だと思うことがある	新入	87	2.47	1.32	1.830 †	9	2.67	1.32	1.035
		出院	70	2.87	1.41		10	3.40	1.71	
3	私はいろいろな良い素質を持っている	新入	87	2.83	1.00	1.304	9	2.89	1.17	0.994
		出院	70	3.06	1.20		10	3.40	1.08	
4	物事を人並みにはうまくやれる	新入	87	3.03	1.08	0.274	9	3.44	0.73	0.333
		出院	70	3.09	1.26		10	3.60	1.26	
5	自分には自慢できるところがあまりない	新入	87	2.54	1.27	0.642	9	2.78	0.97	1.867 †
		出院	70	2.67	1.27		10	3.70	1.16	
6	何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	新入	87	2.87	1.21	2.268 *	9	2.89	1.05	3.468 **
		出院	70	3.34	1.38		10	4.40	0.84	
7	私は、少なくとも人並みには価値のある人間だと思う。	新入	87	2.91	1.11	1.774 †	9	2.89	1.17	1.315
		出院	70	3.24	1.26		10	3.50	0.85	
8	自分は敗北者だと思うことがよくある	新入	87	3.15	1.24	2.388 *	9	2.89	0.93	2.426 *
		出院	69	3.62	1.21		10	4.00	1.05	
9	私は、自分のことが気に入っている	新入	87	3.05	1.20	1.005	9	3.44	0.88	0.654
		出院	70	3.24	1.25		10	3.80	1.40	

注1 網掛けは逆転項目である。 注2 **は1%水準、*は5%水準で有意であることを示す。†は10%水準で有意な傾向を示す。

ということについては、一般的には社会経験などで年齢が増すにつれて共感性も高まると考えられることが多いが、男子では差が見られず、女子で年少群が中間群や年長群に比べて有意に低いことが示された。

極端に高い得点については、思いやりの気持ち強いというよりも、周囲にたやすく情緒的に動かされて、冷静さを失いやすいという意味も含んでいると考えられ(大川ら:1997, 出口ら:2000), 低過ぎも高過ぎもしない適切な得点の範囲を想定し、その中での得点の変化を見ることが必要になってくるのかもしれない。

最後に、新入群と出院群の比較を見たときに、女子では差が見られなかったが、男子では出院期で入院期よりも有意に得点が低かった。共感性を質問紙で測定することの難しさは、これまでに数多く指摘されており、社会的望ましさを意識すれば実際以上に高得点を出すであろうし、より内省的になれば極端な高得点は抑えられるであろうといった可能性がある。したがって、どの要因が働いたのかについて、得点の分布等を分析しながら、今後より詳細に検討する余地があると考えている。

(3) 職業レディネス尺度について

男女ともに年齢が増すと得点が高くなっており、高年齢群の者にとっては、就職が身近な課題として差し迫っているだけに、準備性も高くなると考えられる。性差については、男子が女子よりも有意に高得点を示していた。一般社会でも、男女差があると予想されるが、女子の非行少年が「好きな人と結婚して子供を産んで、幸せな家庭を作る」という意外なほど保守的な将来の夢を描きがちなことからもこの男女差は想像しやすい。

入院期と出院期の得点の比較では、女子の再入群でのみ、出院期の得点が新入群よりも有意に高かった。この結果については、全体として、職業への意識が少年院の処遇で高ま

らなかったというよりも、尺度そのものに関する問題によるところが大きいと思われる。

まず第1は、職業レディネス尺度は1983年に作られており、その当時と比べると職業形態や意識が変化してきている。最近、青少年には「フリーター」と呼ばれる、定職に就かない者が珍しくなくなっているし、社会全体もそうした生活状況に対して許容的になっていることも影響していると考えられることである。第2は、この尺度は短大生や大学生を対象に標準化されているものであり、本調査にあたっては言葉をやさしく言いかえるなど非行少年にも十分理解できるように配慮したが、少年院に在院中の非行少年にとって、職業選択の余地が非常に限られているという現実がある。出院時にそうした状況に直面すれば、目標のために時間をかけ、職業場面で自己実現を図ろうとするような、この尺度が含んでいる理想的な職業観を抱きにくいことが考えられる。

(4) 自尊感情尺度について

この尺度は、本紀要9号の「少年院を出院した少年に関する研究(その1)」でも用いたが、今回は異なる角度から分析するために採用した。実施方法は回答を5件法としているため平均点が異なる。

「結果」で示したように、性別で見ると男子の平均点が女子より高くなっているが、年齢で比較すると男子がやや高くなっているために、年齢要因を念頭に置いた上で、男子の方が自尊感情が高いと言わなければならない。

群別に新入群と出院期を比較した結果では、従来の研究結果と同じであり、男女共通して各群共に出院期の平均点が高く、特に再入少年でその傾向が著しいことが示された。すなわち少年院教育の結果、自尊感情は高められたと考えてもよいと思われる。

さらに自尊感情の内容を分析するために各項目毎の回答傾向を見たが、男子は「自分は人並みだ」「よい素質を持っている」など積

極的に自尊感情を表している質問に「そのとおり」と回答をしていることが特徴的であり、女子においては、「役に立たない人間だ」「敗北者だ」という自己否定的な質問に対して「ちがう」と否定の解答が示されていることが特徴になっている。男子はより積極的自己評価になり、女子は否定的自己評価を乗り越えることで、自尊心を保とうとしているのかもしれない。

5 まとめ

今回の報告では共感性尺度、職業レディネス尺度、自尊感情尺度について、主として性差、年齢差、新入期と出院期の比較を試みた。

共感性が出院期に低くなっているなど、解釈が難しい結果もあり、さまざまな調査結果を考察する場合に、少年院における新入期と出院期における少年の心理状態に留意しつつ考察する必要性を感じた。

つまり、少年院に入院した直後の新入期の少年は、新たな更生のための生活や教育のスタート台に立ったという自覚から、緊張が強く精神的に高揚しやすい状態にある。この時期は、「自分がどうであるか」という客観的な思考や感情を示すより、「自分はこうでなければならない」という理想化された思考や感情に支配されやすい。一方、出院期の少年は、冷静に自己を分析し、客観視し得る力を付けており、更に自分に対して甘さを避け、厳しい評価をする傾向が強いと考えられる。すなわち、新入期の少年の理想に近づかねばならぬという意識と、出院期の少年の自己評価の厳密さを念頭に置いておく必要があるということである。

次回の報告では、社会的スキル尺度の回答結果と自由記述による回答の結果を含めて、更に詳細な分析を試みる予定である。

参考文献

- 相川充 1995 矯正施設での社会的スキル訓練について 刑政106(8), 16-26
- 大川力・淵上康幸・門本泉 1998 非行少年の自己意識に関する研究(その1) 中央研究所紀要, 8, 63-78
- 菊地章夫 1988 思いやりを科学する 川島書店
- 出口保行・斉藤耕二 1990 共感性の因子分析的研究 東京学芸大学紀要 第1部門教育科学第41集 183-196
- 出口保行・大川力 2000 非行少年に見られる「思いやり」と道徳観 犯罪と非行 124 169-188
- 法務省矯正局長 1996 少年院における教育課程の編成、実施及び評価の基準について(通達)
- 星野命 1970 感情の心理と教育 児童心理 24, 1264-1283, 1445-1477
- 堀洋道他 1994 心理尺度ファイル 垣内出版
- 山本真理子・松井豊・山成由美子 1982 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30(1), 64-68
- Rosenberg, M. 1965 Society and the adolescent self-image. Princeton Univ. Press
- 若林満・後藤宗理・鹿内啓子 1983 職業レディネスと職業選択の構造構造 名古屋大学教育学部紀要, 30, 63-68